明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第13号
2023年10月

— 発　行 —
明石市連合まちづくり協議会
編集：広報部会
連絡先：明石市コミュニティ・生涯学習課
TEL (078)918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン　まちづくり　ゆめづくり

まちへの関心・まちづくりへの関わりをつくる工夫

連合まちづくり協議会広報部会では、転入者の増加や働き方の変化、自治会加入率の低下など様々な背景から、地域とのつながりが持ちにくくなっている状況で、どのように地域づくりの裾野を広げるかが大きなテーマだと考えました。そこで、本号ではどのようにしてまちに関心を持ってもらい、まちづくりへの関わりにどうつなげていくか、各校区の工夫や取り組みを紹介します。

まちについて知る

江井島　校区内の出来事を伝える

隔月発行の「ワンダフル江井島」ではまち協の活動に限らず、学校行事や神社の秋祭り情報、初詣スポット紹介などの暮らしに役立つお得な情報発信に力を入れています。読む人は居住歴などに関わらず校区内の情報を得られ、まちへの関心を持つきっかけになっています。

朝霧　地域文化を解説

転入者が多く「地域や文化の言葉が伝わりづらい」という問題意識から、広報紙で「左義長」の解説を特集。お祭りの由来に始まり、竹取りや藁取りなど準備の様子もレポートし、まちが身近に感じられる広報に工夫しています。

林　LINEで身近なまち協に

花火大会や祭りの開催、新しいサロンの開始など校区内の様々な情報を公式LINEで毎週欠かさず配信。住民にも広く認知され、現在はLINEを見た住民から地域行事を手伝いたいと連絡があるなど、仲間づくりの役割も果たしています。

まちについて考える

大観　全住民対象のアンケート

まちの現状を把握するためにアンケートを実施。世帯単位ではなく個人一人ひとりが回答をできるように工夫。内容も暮らしの困りごとを聞くなどで、住民それぞれが自分たちの校区を振り返り、考える機会となりました。

二見西　写真でまちの魅力を再発見

住民からまちの自然や生き物の写真を募集する企画。これは普段暮らす校区に改めて目を向け、まちの魅力について考える機会となっています。写真は広報紙やコミセン掲示板で紹介され、感じる魅力の違いを楽しむ面白さもあるようです。

高丘西　住民意見交換の定期開催

まちの今後を老若男女が語り合う「まちのかたらい」を、定期的にコミセンで開催。共働き世帯のライフスタイルの変化や高齢世帯の困りごとなど、同じ住民同士でも様々な暮らし方があることを知り合う機会になっています。

まちと関わる

二見　お客さんから盛り上げる側へ

夏祭りのメインイベント「花火アート」は、プロ指導のもと住民有志が花火師役となって花火を打ち上げる壮大な手作りショーです。花火師さんは子育て世代中心で、地域のお祭りではお客さんになりがちな若手住民がまちに関わり始める入り口となっています。

魚住　専門家と一緒に自然に親しむ

里山が残る「金ヶ崎公園」で、保全に取り組むグループと自然体験教室を開催。楽しく学びながら行う自然・環境活動は子育て世代も関わりやすく、これまで地域と接点の薄かった転入者や学生などがまちに関わる機会になっています。

沢池　学校授業と連携

「まちを知ろう」という授業で校区にゆるキャラがないことを知った6年生たちが、まち協にゆるキャラづくりを提案。合同で公募を実施、卒業後も一緒に選考会を行い「ポンドさわ」が誕生しました。こどもと大人がともにまちのことを考える一歩になりました。

まちで活動する

大久保　“やりたい”を形にできる仕組み

いきなり部会は無理だけど、やってみたい活動はある…そんな声を実現するために隔月開催されているのが「まち友交流会」。メンバーがまちの見どころを取材しSNSで発信したり、司会が得意な人が地域行事のアナウンスを担当するなど、個性を活かした活動が進んでいます。

二見北　テーマ別のボランティア募集

コミセンの図書コーナー(あい☆あいライブラリー)のボランティアを募集し、現在6人程度で活動。本に関心を持った住民が集まったことで、企画が盛り上がり、校区にまつわる本の紹介コーナーづくりやミニコンサートカフェなどが次々に実現しています。

まちへの関わりをつくる参加のステップ

HITOTOWA INC. 奥河 洋介 さん　講演資料をもとに作成

まちへの関わりには、実は細かなステップがいくつもあると言われています。
例えば、広報紙でまちのことに関心を持って地域の行事に参加する。参加して楽しければ他の人を誘うなど。各校区事例のように、色々な参加のきっかけや関わり方を工夫することが、新たな住民の参加や参画につながるようです。

この広報紙「明石のまちづくり」は赤い羽根募金の助成金の一部を使って作成されています。

まちナビAKASHI
QRコードから、まちナビAKASHIの校区別地域情報ページをご覧いただけます。
このページから過去の「明石のまちづくり」のアーカイブを読むことができます。
是非ご覧ください。

校区まちづくり組織

錦が丘校区の取り組み

明石市内の小学校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、各校区で試行錯誤しながら取り組まれている内容について、連合まちづくり協議会の広報部会が取材し、事例として紹介しています。

錦が丘小学校区は子育て世代も多く暮らしているまちです。錦が丘校区まちづくり協議会（西海会長　以下、まち協）では、2021年に第2期まちづくり計画書を策定しました。子育てや仕事をしながらでも気軽にまちに関わり参加できるようにし、そのアイデアや感性を大切に活動しています。

今回は、そうした活動や工夫を伺いました。

▲親しみをもってもらえるようにと住民から募集したまちの写真やまんがを使って作成したまちづくり計画書「錦が丘 未来予想図 2」

―「私なりの関わり方」で活動が続けられるまち協

まち協では、まずはまちや地域活動に関心を持ってもらうことが大事と、参加の間口を広げる小さな活動に力をいれています。例えば、まち協が維持・管理を担う錦が丘中央公園の一斉清掃の時には、防災学習や交流会も合わせて行っています。住民が集まるタイミングで他の行事とかけ合わせることで、まち協の活動を知ってもらう機会をつくっています。

活動を知って参加したいとなれば気軽に関われる「ふれんず」というサポーター制度もあります。グループLINEに登録すると案内が届き、興味のある活動を選んで参加することができます。

また、活動に関わるようになった住民が継続しやすい工夫も行っています。説明会をもとに希望する部会を選択でき、時には交流の場として部会を超えた座談会も開催しています。長年まち協の活動に携わる副会長の松本さんは「できる人ができるときに、やりたいときに関わる形に出来ればと思っている」と語ります。このような活動のしやすさを受けて、充て職から継続してまち協に関わり続けているという方が増えており、元自治会長や元PTAの30・40代が活動を中心的に担う存在になっています。

▲行事の企画・準備で「いつなにをするか」が整理された年間カレンダー。新しいメンバーでも運営に関わりやすいようにと作成しました。

―活動の方向性がみえた計画書づくり

現在のような活動に取り組むようになったきっかけは、まちづくり計画書の見直しにありました。

計画書づくりでまず初めに取り組んだのは、今までの行事や活動の整理でした。当時は毎月行事を実施するほど活動が活発だった一方で、自治会動員を中心にした大型行事が多く、いろんなひとが関われるゆとりがないことが話題に挙がりました。そこで、大型行事は住民の交流をねらった夏祭りなど数を絞り、運営も4つの部会から3つのチーム（まもる、はぐくむ、つなぐ）にするなどスリム化を進めました。代わりに、チームメンバーやふれんずから企画提案を受け付け、子育て世代が集う体験イベントをはじめ、参加者も運営側も交流できるように進めています。

まち協は、このようにいろんな関わり方で、誰でも活動に参加できる「余白」を大切にしたいとなりました。

―「余白」から広がるやってみたいの声

自治会長になったことでまちと接点ができ、楽しみながら活動しているという山下さんは、「自分のやってみたいことを言える仲間がいて嬉しい。みんなに背中を押され様々なことにチャレンジできている」と語ります。活動にゆとりができたことでアイデアが次々と生まれ、「にしきマルシェ」という新たな活動も企画・開催されました。

はぐくむリーダーで子育て世代の河野さんは、「どうしても子どもを楽しませる目線で考えてしまうが、いろんな世代や属性の人と一緒に企画をすると様々な視点で考えられた」と、多様な人たちと一緒に活動することの良さを話します。

▲にしきマルシェは住民が好きなこと得意なことでチャレンジできるイベント。コーヒー焙煎勉強中のご夫婦などが出店されました。

▲まち協の活動拠点である錦が丘中央公園内「ふれあい広場 錦が丘」での取材風景。色々な立場でまちづくりに関わる皆さんにお話を伺いました。

―最初の入口は「寄ってもらうこと」から

元PTAでまち協と出会い、再びまちとのつながりを求めて参加するようになった濵松さんは、「小さな活動から、まずは寄ってもらってまち協の活動を知る人を増やしたい。私たちの活動の様子を見てもらい、楽しそうだから私もやってみたいと思ってもらえれば」と話します。

様々な形でまちに関心をもち、活動に参加したいと思う住民の輪が益々広がる錦が丘まち協になっています。

あかしまちづくり懇談会

つながるまちのつくり方

～防災・環境・参画から考える～

日　時：令和5年**11月11日（土）**
13:30～15:30

場　所：複合型交流拠点ウィズあかし

対　象：明石市内で校区まちづくり組織に関わる皆さん

問合せ：明石市コミュニティ・生涯学習課
TEL：(078) 918-5004

市内28校区が集まり明石のまちづくりのこれからについて学び、話し合う『まちづくり懇談会』を開催します。

＼３つのテーマに分かれ学びます／

●分科会①「防災」
まち協の“共助”ができること

●分科会②「環境」
つながる・ひろがる“環境”の取り組み

●分科会③「参画」
多様な人が関わる工夫と場づくり

詳細はこちらからご覧いただけます。

自治会・町内会 新会長研修会を開催しました

2023年6月3日（土）、明石市立勤労福祉会館で自治会・町内会新会長研修会を開催しました。連合まちづくり協議会の理事も加わっての意見交換会では、「新型コロナウイルスの５類感染症移行後の自治会活動のあり方」や「SNSを活用した情報共有」、従前からの課題である「自治会役員のなり手不足」、「ごみステーションの管理」など、幅広く活発な意見交換が行われました。参加者からは、「他の地域の活動状況や不安、疑問を共有できて有意義な場になった」などの声がありました。

▲意見交換の様子

明石市連合まちづくり協議会 報告・お知らせ